



日本音楽教育学会ニュースレター 第64号

目 次

1	会長就任のご挨拶	小川 容子	2
2	学会からのお知らせ		
1.	平成 28・29 年度 役員一覧		3
2.	平成 28・29 年度 委員一覧		3
3.	日本音楽教育学会第 47 回大会（横浜大会）のおしらせ（第 2 報）.....		4
4.	修士課程・博士課程の院生による「院生フォーラム」発表者募集		5
5.	第 14 回音楽教育ゼミナール（目白ゼミナール）のおしらせ		5
6.	編集委員会からのおしらせ		6
3	音楽教育の窓		
1.	〈連載〉音楽・教育・学校（8）伝統芸能が教育現場に	大倉源次郎	8
2.	ISME グラスゴー大会に参加しましょう！	阪井 恵	9
3.	韓国音楽教育学会第 60 回大会	今田 匡彦	9
4.	Tsangmo Competition & Symposium Bhutan.....	伊野 義博	9
5.	平成 28 年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報		10
4	会員の声		
1.	音を媒体としたコミュニケーションに着目した音楽科の授業	西沢 久実	11
2.	ハンガリーで日本・ハンガリー合唱団友情の合同演奏 日本民謡《刈干切唄》.....	降矢美彌子	12
3.	日本音楽教育学会に入会して	久米 亜弥	13
4.	伝えたい！民謡の素晴らしさ	柳 憲一郎	13
5.	会員の新刊・近刊等紹介		14
5	報告		
1.	平成 28 年度第 1 回常任理事会		15
2.	平成 28 年度第 1 回理事会		16
6	事務局より		20
	[編集後記]		

1 会長就任のご挨拶

日本音楽教育学会会長 小川 容子

昨年、2015年7月の選挙で再任していただき、二期目の会長職を務めることになりました。学会員の皆様のご支持に改めて御礼を申し上げるとともに、日本音楽教育学会のさらなる飛躍をめざして、今川副会長、権藤事務局長、常任理事及び理事の皆様と共に、力強く前進したいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

産業構造、経済状況の急激な変化を背景に、「教育再生・地方創生」「大学教育の質的転換」「グローバル化に対応した人材育成」などの施策が、矢継ぎ早に発表されております。耳障りなカタカナが一気に押し寄せ、教育界を取り巻く諸情勢はますます厳しくなっております。こうした状況下だからこそ、不透明な現実の、その先を見据える力が必要です。真贋を見極めるホンモノの知力が求められておりますし、音楽教育の真価が問われているといえるでしょう。

2年前に私は、「研究によって生み出される音楽芸術の知の正当性を、科学的に示すこと」と「教育・研究に関する学際的な交流を推進し、その成果を社会に還元すること」の二つを課題として掲げました。芸術関連諸団体との連携構築、文部科学省との関係強化、韓国との学術交流支援など、一部は達成できましたが、まだまだ道半ばです。学問分野や領域の垣根を越えた学際的な研究・国際的な共同研究の推進をはじめ、とりわけ、会員の皆様の研究成果、及び教育現場での確かな成果を収集・整備し、社会へ還元することに関しては、不十分だと認識しております。

昨年度実施した質問紙調査やWebアンケートに寄せられた子どもたちの声は、熱い声援であると同時に、重要な課題に直結しております。「音楽が大好きです」「わからないところを、ていねいに教えてくれる先生です」「こつをしっかりと教えてくれるので、うれしい」と答えてくれた子どもたち、「もっと、皆でこんなことをしたい」「あんなことができたらいいな」と教えてくれた子どもたちの声を一つ一つ拾い上げ、真摯に耳を傾け、一緒に解決したいと思います。

今年度も、「年次大会」(於：横浜国立大学)、「夏期ゼミナール」(於：日本女子大学)、各地区での例会をはじめ、多くの魅力的な企画が予定されています。第22期常任理事・理事、諸委員会、事務局一同、一丸となって困難に立ち向かい、これまでの走りをもつことなく未来を切り拓いていきます。引き続き、学会員皆様のご支援、ご協力、ご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 学会からのお知らせ



1 平成 28・29 年度 役員一覧 ○：地区担当理事

役 職	氏 名	所 属 等	選出地区	担 当
会 長	小川 容子	岡山大学	中国・四国	
副 会 長	今川 恭子	聖心女子大学	関東	
事務局長	権藤 敦子	広島大学	中国・四国	
常任理事	加藤 富美子	東京音楽大学	関東	総務
”	三村 真弓	広島大学	中国・四国○	総務
”	今田 匡彦	弘前大学	東北○	企画・アジア地域連携
”	坪能 由紀子	日本女子大学	関東	企画
”	杉江 淑子	滋賀大学	近畿	編集（常任理事会選出）
”	奥 忍	関西外国語大学	近畿	広報
”	島崎 篤子	文教大学	関東	会計
”	寺田 貴雄	北海道教育大学	北海道○	会計
”	菅 裕	宮崎大学	九州	
理 事	有本 真紀	立教大学	関東	
”	木村 充子	桜美林大学	関東○	
”	阪井 恵	明星大学	関東	国際交流
”	山本 幸正	国立音楽大学	関東	
”	後藤 丹	上越教育大学	北陸○	編集（理事会選出）
”	新山王 政和	愛知教育大学	東海	
”	南 曜子	金城学院大学	東海○	
”	菅 道子	和歌山大学	近畿○	
”	木村 次宏	福岡教育大学	九州○	
会計監事	佐野 靖	東京藝術大学		
”	嶋田 由美	学習院大学		



2 平成 28・29 年度 委員一覧 ◎：委員長 ○：副委員長

編集委員会	◎有本 真紀	石井 ゆきこ	後藤 丹	齊藤 忠彦
	笹野 恵理子	志村 洋子	菅 裕	杉江 淑子
	藤井 浩基	本多 佐保美	松永 洋介	○水戸 博道
	村尾 忠廣			
国際交流委員会	◎阪井 恵	○疇地 希美	桐原 礼	古山 典子
	今 由佳里			
広報委員会	◎奥 忍	○高見 仁志	村上 康子	山中 和佳子
選挙管理委員会	駒 久美子	高橋 雅子	中里 南子	長谷川 恭子
	水崎 誠			
学会賞審査委員会	小川 容子	有本 真紀	加藤 富美子	北山 敦康
	嶋田 由美	坪能 由紀子	永岡 都	
音楽文献目録委員会	木間 英子	三枝 まり	福田 裕美	

3 日本音楽教育学会第47回大会（横浜大会）のおしらせ（第2報）

大会実行委員長 小川 昌文

平成 28 年（2016）年度の大会は、下記の通り横浜国立大学常盤台キャンパスにて開催されます。
多数のご参加を心よりお待ちしております。

1. 会場：横浜国立大学常盤台キャンパス 〒240-8502 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

2. 日程：平成 28 年 10 月 8 日（土）～ 10 月 9 日（日）

10 月 8 日 (土)	9:30	12:30	13:30	14:00	15:15	15:30	15:45	17:15	17:30	18:25	18:30	20:00
	研究発表 I		昼食	挨拶・記念演奏 I	基調講演	休憩	記念演奏 2	シンポジウム		総会	懇親会	
		11:30	13:30				15:30	17:00				
	院生フォーラム						プロジェクト研究・共同企画					

10 月 9 日 (日)	9:00	12:30	13:30	16:45
	研究発表 II		昼食	プロジェクト研究・共同企画
		11:30	13:30	16:30
	院生フォーラム		次世代育成事業（アウトリーチ）	

3. 大会主題：「ミュージキング：原点からの音楽教育」

4. 基調講演：David Elliott（ニューヨーク大学教授）

5. シンポジウム：「音楽と音楽教育の原点から音楽科の意義を再考する」

シンポジスト：塚田 健一，有元 典文，小川 昌文 司会：安田 寛

6. 横浜市次世代育成事業（アウトリーチ）

テーマ：ミュージキング：グローバルな視点から音楽を学ぼう～日本伝統音楽と世界の音楽との融合

出演者：横浜インターナショナルスクール（箏アンサンブル），望月太左衛社中

佐倉ジュニア合唱団，神奈川県立湘南高校合唱部，他

7. 懇親会：10月8日 18:30～20:00 於：横浜国立大学第1食堂（れんか館）

8. 参加費：会 員 4,000 円（事前振込）・4,500 円（当日払い）

学生会員 2,000 円（事前振込・当日払い）

臨時会員（一日参加） 3,500 円（当日受付にお申し出ください）

（両日参加） 6,000 円（当日受付にお申し出ください）

9. 懇親会費（10月8日）： 5,000 円

10. 会場へのアクセス等：大学ホームページをご覧ください。http://www.ynu.ac.jp/access/index.html

（土休日，バスはキャンパスに乗り入れていません）

11. その他

- 発表打ち合わせ：研究発表の前に、「発表打ち合わせ」を行います。

詳細は関係者のみなさまに追ってお知らせします。

- 昼食について：学生食堂は土日とも開いていますのでそちらもご利用下さい。

- 大会 URL：http://日本音楽教育学会.com/event

4 修士課程・博士課程の院生による「院生フォーラム」発表者募集

東京学芸大学大学院 池田枝里奈
 横浜国立大学大学院 井辻 冨聡
 ” 原田 知佳

日本音楽教育学会第47回大会（横浜大会）において全国の大学院生によるセッションを下記の通り開催いたします。「院生フォーラム」は大学院生が企画・実施するものです。今年度は、横浜国立大学・東京学芸大学の大学院生3名が中心となって運営いたします。活発な意見交換を通して院生同士の交流の場となることを願っております。多数の大学院生の参加をお待ち申し上げます。なお、本年度は修士課程、博士課程（後期）院生のセッションをそれぞれ実施いたします。

応募要項	<p>1. 期 日：平成28年10月8日（土）、9日（日） 11:30～13:30</p> <p>2. 会 場：横浜国立大学 7号館（予定）</p> <p>3. 発表資格：申込時点で学会入会手続きを完了しており、年会費を納入済の大学院修士課程あるいは博士前期課程・後期課程に在籍する学生。入会については、学会事務局にお問い合わせ下さい。</p> <p>4. 発表形式：ポスター展示、テーマ・研究計画・概要等の質疑応答。なお、口頭発表を別途行う院生は、ポスター展示を必ずしも必要としません。</p> <p>5. 申込方法：以下の項目を記載の上、メールにてご送付ください。 *申込・問い合わせ先：（半角で）forum.music.2016@gmail.com - 件名：「院生フォーラム申し込み（氏名）」 - 本文：氏名、所属大学（課程）、研究テーマ、発表方法 詳細につきましては、後日、本大会ホームページにて掲載いたします。</p> <p>6. 申込締切：平成28年9月8日（木） 参加者には、院生フォーラム設営等のお手伝いをお願いする場合がありますのでご承知下さい。</p>
------	--

5 第14回音楽教育ゼミナール（目白ゼミナール）のお知らせ

——英語で研究を海外に発信しよう！——

学会企画担当理事 今田 匡彦・坪能由紀子

第12回立教ゼミナールに引き続き、国際的に開かれた若手研究者を支援するプログラム第2回です。参加者は、それぞれの目的にあったパワーポイントや原稿を前もって準備します。成果は、海外の学会等での発表を目指します。

内 容
① 英語でパワーポイントを作成する。
② 英語でプレゼンテーションする。
③ 英語でペーパーを書く。

日 時：2016年8月13日（土）10:00～17:00・14日（日）10:00～17:00

場 所：日本女子大学 新泉山館2階会議室（アクセスは日本女子大学のHPをご覧ください）

講 師：柴崎かがり（University of Huddersfield）

参加費：会員（一般）3,000円 会員（院生・学生）2,000円

申込〆切：8月6日（土）

申込・問い合わせ：（半角で）ongakukyoku.mejiroseminar@gmail.com

*詳しくは目白ゼミナールHP(<http://ongakukyoku.seminar.blogspot.jp/>)をご覧ください。

6 編集委員会からのお知らせ

編集委員会委員長 有本 真紀

平成 28・29 年度編集委員会は、「学会誌のあり方に関する問題点の整理と改善に向けた提案（答申）」（学会誌のあり方に関する検討委員会，2015 年 5 月 7 日，学会ホームページ掲載）の趣旨を実現していくことを課題として，スタートしました。第 46 回大会総会で改定された編集委員会規定，投稿規定は 4 月から実施されておりますが，そのほかにも今年度から大きく変わる部分がありますので，会員のみなさまにご理解をいただきますよう，お願いいたします。

『音楽教育学』の発行時期が 8 月と 3 月に，『音楽教育実践ジャーナル』は年 1 回，12 月発行となって，それぞれが明確な特徴をもつ学会誌として生まれ変わります。

これまで，両誌とも「論文」の投稿を受け付けていましたが，「論文」は『音楽教育学』に一本化されます。そして，『音楽教育学』は装丁も新たに，投稿原稿を中核とする研究交流誌をめざします。『音楽教育実践ジャーナル』は，会員が日頃の実践を活発に交換できる実践交流誌をめざします。

今期委員会では，「投稿された原稿の長所を生かす」ことを編集の基本方針とします。この基本方針が査読者に伝わるよう査読指針を含む依頼文書を見直すとともに，査読者や編集協力者の方々へも，査読意見・原稿へのコメントだけでなく，修正時など必要に応じて協力をお願いする予定です。また，投稿申込書に「研究の学術的な特色・独創的な点および意義等」を記入できるようにし，投稿者への通知文のあり方についても検討いたします。「投稿の手引き」の整備にも取りかかっています。学会誌は，投稿原稿が集まってこそ成り立ちます。委員会では，積極的に投稿していただけるような環境を整えていきたいと考えています。さらに，学会誌編集上の諸課題は，編集委員会だけでなく，学会全体として考え，学会をとりまく社会の状況にも合致するよう改善していくべき重要なことから認識しております。理事会をはじめ，各委員会や大会実行委員会などとも連携を図りながら，親しみやすく質の高い学会誌づくりを心がけてまいります。

編集委員は，規定改正により 1 名増員され，13 名体制となりました。多様な投稿，多岐にわたる音楽教育の分野と方法に対応できるメンバー構成となっております（各委員の研究分野は右の通り）。委員一同，心して重責を果たしていく所存です。どうぞよろしくお願いたします。

委員氏名	研究分野
有本 真紀	歴史社会学・教育評価論
石井ゆきこ	小学校音楽科実践
後藤 丹	作曲・楽曲分析
齊藤 忠彦	音楽生理学（脳科学）・音楽科教材開発
笹野恵理子	カリキュラムの社会学的研究・潜在的カリキュラム研究
志村 洋子	乳幼児音楽教育学・音声の音響解析
菅 裕	音楽科教員の実践的能力
杉江 淑子	社会学的研究・調査統計
藤井 浩基	日韓音楽教育関係史・地域の音楽の教材開発
本多佐保美	音楽教育実践史研究・日本音楽の教材化研究
松永 洋介	創作教育研究・教育方法学（カリキュラム論，授業分析）
水戸 博道	音楽行動の心理学的研究
村尾 忠廣	教材分析・認知音楽学

平成 28 年度第 1 回編集委員会は、4 月 10 日（日）に立教大学にて開催されました。継続委員が 3 名のみであること、重要な課題が多数あることから第 1 回を 4 月開催とし、今年度に限り年間 5 回の会議を予定しています。第 1 回は投稿原稿についての査読・採否の決定は行わず、引継ぎ事項および基本方針や新たな年間スケジュールなどの確認、2 年間を見越した担当分担の決定などを中心に協議を行いました。委員長には有本が、副委員長には水戸委員が選出されました。

このほかに、第 1 回委員会で協議されたことは以下の通りです。①学会では、『音楽教育学』と『音楽教育実践ジャーナル』に掲載された論文・報告等を、順次 J-STAGE（電子ジャーナル公開システム）に登載していく予定ですが、編集委員会としてその登載範囲を理事会に提案いたしました。②「委員が投稿した場合の取り扱い（覚書）」について、学会ホームページに公表することとしました。③書評対象の選定、『音楽教育学』の特集・原稿依頼のあり方、編集事務の ICT 化については継続審議事項となっています。第 2 回委員会は、5 月 29 日（日）開催です。

特集「教員養成の現状と課題」を含む『音楽教育学』第 46 巻 1 号は、8 月末にお届けすべく編集を進めています。旧・新両規定による投稿で構成される『音楽教育実践ジャーナル』通巻 27 号は、12 月末の発行に向けて準備を開始しました。同誌 28 号の特集テーマは、次号ニュースレターで広報する予定です。

学会誌に掲載された投稿原稿は J-STAGE で公開され、広く参照されることとなります。両誌ともに、会員のみなさまから多くの投稿をお寄せいただきますよう、心よりお待ちしております。



『唱歌の情景—《夏は来ぬ》』

3 音楽教育の窓

1 〈連載〉音楽・教育・学校（8）

伝統芸能が教育現場に

大倉源次郎（能楽小鼓方大倉流十六世宗家）

2002年の教育基本法の改革により伝統芸能を教育現場に取り込むとの方針が文部科学省によって打ち出され、私たち能楽師も教育現場に関わる機会が増えました。しかし能楽師は舞台上で演能するのが本職であり、素人社中に月謝を頂いて稽古をつけることはあっても教育現場での指導に対するノウハウは殆ど持ち合わせていませんでした。ここでは以下3点の問題を挙げて解決への糸口となる方法を考察してみます。

① 指導者とテキストの不足 ② 能楽師の適応性 ③ 継続的な指導方針

①については、教育現場に能楽を指導できる教師がいないこと、指導の手立てとなる指導書テキストが完備されていないことを挙げます。以前に音楽鑑賞を教育に取り組む上で、幼児から義務教育に至るまでにいかに音楽に触れさせて、情操、感性の発育を促す学習・指導プログラムの開発・研究がなされているかを伺い驚きました。能楽は、実は明治の頃まで自然な形で生活文化に取り込まれるように成っていたのです。ところが今では中学校で唐突に教科書に載り、生活の中で楽しむレベルを体験せずに知識学習の対象になっています。これは不幸であります。最近の教科書に掲載された「能」の頁を見ると、技術の切り売りのように感じられ、この音楽がいかなる文化的背景を背負って生まれて近世まで楽しまれて来たかの文化的背景の情報が欠如しています。

②については、能楽師は稽古を通して師匠から一対一で教わって来ました。集団教育の現場には慣れていません。慣れたとしても技術の切売りの集団レッスンであり、そこから生まれる師弟間の愛情は欠如しています。これは難しい問題です。師匠は一人一人の資質を見ながら最も相応しい稽古をつけるべきなのに、人を見る時間も環境もないのです。しかし、見たり聞いたりだけで満足させずに、体験を通して身体に刻み込む上で、体験を外せない現状があります。

③については、継続する指導法とは、幼児から義務教育に至る中で体系的に能楽という生活文化と触れ、美しい言語が身につく様に、人としての身だしなみが伝統芸能を通して整う様な指導を意味し、そのような指導がなされなくてはならないと考えます。

さて、この様に見ていくと課題が山積みのまま教育現場に伝統芸能が取り入れられている現状が理解できます。

①に関しては、付け焼き刃の教育よりも、先生方の学生時代は伝統芸能が教育プログラムになかったことを公言し、生徒たちと一緒に楽しもうという姿勢で、共に日本の伝統文化について語り、楽しむ授業を開いて頂くことで解決の糸口が見つかると思います。

②に関しては、能楽師による技術の習得よりも、体験を通じた能楽の楽しみ方、人が育つ瞬間を共有していく指導を心がけていくことで伝統から何を教えるべきかが見えてくると思います。礼に始まり礼に終わるという言葉があります。授業の本義はベルが鳴ったから授業が始まるのではなく教わる方が真剣に学びたいという心を持って「よろしくお願ひします」と挨拶し、しっかりと学び成長したことに対して深い感謝を持って「ありがとうございました」と礼をすることにあります。これが稽古の本義であり、授業の本質でもあったと考えます。幼児期の躰から再構築することなのです。

③に関しては紙幅の関係で詳しく述べることはできません。日本の歴史の中で育まれた伝統芸能である能楽の中にある多様性を認めた、いわゆる複合（ハイブリッド）文化の哲学を伝えること、また、様々な能の役柄を演じることで色々な立場の人の心を知る修練など、伝統芸能である能を通じて何を子どもたち

の未来に伝えるのかをしっかりと見極めなくてはなりません。

以上の3点を押さえて、平易な言葉で指導することが重要課題です。そこで初めて多言語化する国際社会の中で、学校が日本の伝統文化を基に世界の未来を語れる人材を育てられる現場になると考えます。

2 ISME グラスゴー大会に参加しましょう！

国際交流委員会委員長 阪井 恵

ISME 第32回世界大会が7月24日から29日、スコットランドのグラスゴーで開催されます。グラスゴーは工業都市として発展しましたが、この10年ほどは、芸術都市としての顔を前面に出しています。ISMEの大会



では、熱く繰り広げられる研究発表と並行して、開催地の特長を存分に生かした講演（公演）やコンサートが次々と催されます。今大会ではエヴェリン・グレニー、ジョン・アーマトレイディングの講演が目目されます。そして夜にはCeilidh（カイルイと読む）が催されます。これはアイリッシュやスコティッシュスタイルの、物語と歌と踊りのタペのこと。今大会の魅力は、高い芸術性に触れられると同時に、現地に伝わる素朴で力強い音楽と踊りにも思い切り浸れることだろうと思います。私たちの学会で「研究を英語で発表しよう！」気運の高まっている今日、今回発表をしない方も、世界に知り合いを作り、「次回、発表する！」という目標を定める機会になりますので、奮ってご参加ください。

3 韓国音楽教育学会第60回大会

今田 匡彦（弘前大学）

2016年8月10日と11日の両日、ソウルのChung-Ang UniversityにてThe 60th Anniversary International Conference of Korean Music Education Society（韓国音楽教育学会第60回記念国際会議）が開催されます。日本音楽教育学会との交流イベントとして、講演：The sound education and the grain of the music（11日、10:00-11:00）とワークショップ：Paper and voice projects（11日、14:00-16:00）の2つが予定されており、私がアジア地域連携理事として担当致します。既に日本からも多くの発表申し込みがあり、音楽教育を窓口としたこれまで以上の学術交流の場となることが期待されます。

- 会場大学 Chung-Ang University <http://neweng.cau.ac.kr/> - 韓国音楽教育学会（KMES）<http://www.kmes.or.kr/>

4 Tsangmo Competition & Symposium Bhutan

伊野 義博（新潟大学）



この秋、ブータンに行きませんか。そこで若者の掛け合い歌を聞いて、日本の音楽教育を振り返ってみませんか。ブータンには、ツァンモと呼ばれる歌あそびの伝統があります。相手が歌う歌詞の内容を瞬時に判断して歌い返し、勝ち負けを競い合います。何ともすごい能力です。写真はツァンモ遊びの一種で、歌いながら棒で小物を指し、歌の最後に指された物の

持ち主について、歌詞の内容から占うツァンモをして遊んでいるところです。掛け合いの他にこうした占い遊びもあります。日本・ブータン民俗音楽研究会と日本ブータン研究所は、外務省や日本音楽教育学会などの後援をいただき、2016年9月24日（土）・25日（日）、「ブータンの宝石ツァンモ-未来に文化とつなぐ-」と題して、複数の高校生によるツァンモ大会と伝統的な歌の意義を考えるシンポジウムを企画しました。会場はブータンの首都ティンピーです。

- 「ブータンの旅」問合せ・申込先：大陸旅遊（endo@tairikuryoyu.co.jp 遠藤涉さん）まで。

5 平成 28 年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報

名 称	開催日	会 場	URL
14 th International Conference on Music Perception and Cognition	07.05 -09	Hyatt Regency Hotel	http://icmpc.org/icmpc14/index.html
32 nd World Conference International Society for Music Education	07.24 -29	Glasgow Royal Concert Hall Royal Conservatoire of Scotland	http://www.isme2016glasgow.org/
音楽情報科学研究会 112 回研究会	07.30 -08.01	東京理科大学野田キャンパス	http://www.sigmus.jp/
日本学校音楽教育実践学会 第 21 回大会	08.20 -21	北海道教育大学 岩見沢校	http://www.jassmep.jp/
音楽学習学会 第 12 回研究発表大会	08.25	九州女子大学	https://jsml.jp/
全国大学音楽教育学会 第 32 回全国大会 (鹿児島大会)	08.26 -28	鹿児島女子短期大学	http://www.nacome.com/
日本音響学会 2016 年秋季研究発表会	09.14 -16	富山大学五福キャンパス	http://www.asj.gr.jp/annualmeeting/index.html
日本教師教育学会 第 26 回研究大会	09.17 -18	帝京大学八王子キャンパス (東京都八王子市)	http://www.gakkai.ne.jp/jsste/
全日本音楽教育研究会全国大会 (大学部会)	10.22	玉川大学 (調整中)	http://www.jsme.net/
日本教科教育学会 第 42 回全国大会	10.22 -23	鳴門教育大学	http://jcrda.jp/
全日本音楽教育研究会全国大会 (小・中学校部会／高等学校部会)	11.01 -02	府中の森芸術劇場 (東京都府中市)	http://www.jsme.net/
日本音楽学会 第 67 回全国大会	11.12 -13	中京大学名古屋キャンパス	http://www.musicology-japan.org/activity/activity_main.html
東洋音楽学会 第 67 回大会	11.05 -06	放送大学文京学習センター	http://tog.a.la9.jp/
日本民俗音楽学会 第 30 東京大会	12.10 -11	国立音楽大学	http://s-jfm.org/
日本音楽知覚認知学会秋季研究発表会 共催：日本音響学会音楽音響研究会	10.29 -30	筑波大学	http://jsmpc.org/
International Musicological Society, 20 th Quinquennial Congress	2017. 03.09 -23	東京藝術大学	http://ims2017-tokyo.org/

4 会員の声

1 音を媒体としたコミュニケーションに着目した音楽科の授業

西沢 久実（神戸市立神戸祇園小学校）

私が、音楽科の授業で大切にしていることに「音を媒体としたコミュニケーション」がある。歌唱や器楽の表現についても、教師主導型でなく、子どもたちが「自分の表現」について考え話し合い、表現に生かしていくことが必要だと考えている。このような思考・判断のできる子どもを育むためには、学習の積み重ねが大切である。そこで、常時活動に「音を媒体としたコミュニケーションの活動」を取り入れている。常時活動は、授業の導入に行うため、今月の歌などを教材とすることが多い。4月に実施した《ドレミの歌》のプログラム案をいくつか紹介したい。

【コミュニケーションに着目した《ドレミの歌》プログラム案】

- 子どもたちは《ドレミの歌》の音楽を聴きながら入って来て、自分のいすの前で足踏みをする。この時、拍の流れを意識して友達と動きをそろえる。急に音楽が止まり、それに合わせて体の動きを止める等、毎回ルールを変えて遊ぶ。私は、子どもたちが音楽室に入った瞬間に、音楽の世界に浸ってほしいと願っている。ルールは学年やクラスに応じて柔軟に作る。子どもたちは「拍の流れ」「拍子」を感じ取りながら、歌ったり動いたりして楽しむ。
- 次に自由に動き、「ドはドーナツのド（ハイタッチ）」など、フレーズの最後で友達と手を合やす〔写真〕。また歩き始め、次のフレーズでハイタッチを繰り返す。または、半円の隊形でお手合わせをする。1拍目は自分で両手を合わせ、2拍目は右隣の友達の左手を自分の右手で鳴らす。音の視覚化により誰もが拍の流れを意識することができる。全員がそろろうと一体感が生まれる。
- 曲の後半からは歌の姿勢をとってクラスで二部合唱にする。アカペラにすることにより、より互いのパートを聞き合う場をつくることができる。また、半円の隊形は、互いに顔を見合わせながら拍を合やすことができる。
- 2番の「どんなときにも列をくんで」からは、フレーズごとに一人歌いをする。聴いている子どもは歌い終わった子どもの方を向いて手で丸をつくり、声が届いたことを示す。
- 最後のフレーズは、みんなで歌う。最後の音を長くのばし、指揮者の合図で止める。指揮者の子どもが自由に長さを決め、他の子どもたちは、その指揮を見てそろえて止める。



《ドレミの歌》でハイタッチ

最後に、これらの活動は、コミュニケーション力を付けることを目的としているのではないことを付け加えたい。「音楽科のねらい」のもとで学習をする時、指導者がコミュニケーションを意識して授業を仕組みれば、自然に音を媒体としたコミュニケーション力が引き出される。子どもたちはそれぞれ多様なコミュニケーションを通して自己表現を楽しんでいる。

2 ハンガリーで日本・ハンガリー合唱団友情の合同演奏 日本民謡《刈干切唄》

降矢美彌子（宮城教育大学名誉教授）



NIPPONFÖLD VARÁZSKERTJE 開幕コンサート

ハンガリーの首都ブダペシュトの隣接都市ブダエルシュ・タウンホールで、Polgár Marianne（ポガール マリアンネ）の「NIPPONFÖLD VARÁZSKERTJE（日本の大地 魔法の庭）」と題した絵の展覧会が開かれた。この展覧会は、日本人が自然を愛し、伝統を尊重していることを賛辞し、もっと日本人の魂を理解し、日本とハンガリーの2つの民族の友情を深めようという意図で開催された展覧会だった。

展覧会の開幕にあたって、2015年11月9日18時から開幕コンサートが行われた。この演奏会では、難波智賀子（福島コダーイ合唱団団員）と、地元の合唱団のブダエルシュ・シャブソン・フェレンツ合唱団（Budaörs Sapszon Ferenc Choir）が、混声合唱曲宮崎県民謡の《刈干切唄》を日本語で歌って共演した。1番、3番がソロと混声合唱の掛け合い、2番が前半女声、後半男声、最後混声合唱という形で山城祥二による編曲である。ハンガリーの合唱団に日本語で、日本民謡の歌い方で歌ってもらうことは至難にも思われたが、難波が事前に送った日本語の発音テープをハンガリーの合唱団は熱心に日本語を練習して準備した。

ハンガリーの合唱団と難波の事前練習は1回だけだったが、難波が、発音、日本語の意味を合唱団に丁寧に伝え、日本の民謡の発声の仕方、日本の民謡の様式での歌い方を指導し、コール・アンド・リスポンスのようなこの作品の神髄を教えることができた。手と手をつなぎ合わせて、心を伝え合う方法である。2006年、アメリカのインディアナ大学でも同じ方法でこの作品を美しく演奏したことが思いだされる。

日本民謡を民謡の発声でハンガリー人と日本人が日本語で心を通わせて歌うということは稀有なことだと思われるが、ハンガリーの合唱団員の中には、泣きながら歌っている団員もいて、演奏は大きな感動を与えたのだった。

日本とハンガリーの合唱交流は60年を超える。セーニ・エルジェーベト女史などハンガリーの優れた音楽家が戦後に来日し、コダーイの理念や指導法を日本に伝えた。これまでは、日本がハンガリーから学んで来たが、今回は初めてハンガリーの合唱団が日本語や日本民謡の歌い方を見事に学び、日本人のソロと心を合わせて共演し、その美しさで聴衆に感動を与えたという意味で記念すべきことだった。この共演が可能になった背景には、ハンガリーの民謡の形式が「パルランド・ルパート」「ジュスト」で、日本の「おいわけ」「八木節」という2つの形式に共通するところにもあったと言えよう。

演奏会では、クラスナイ・ガーシュパール（Krasznai Gáspár）の指揮で、難波が紙風船つきやまりつきを含む数曲のわらべうたも紹介した。最後に、コダーイ・ゾルターン（Zoltán Kodály）の「Esti Dal（夕べの歌）」を合唱団と共に歌った。「夕べの歌」は、福島コダーイ合唱団のシンボル曲。福島コダーイ合唱団は、1981年から震災まで毎年、ハンガリーの合唱指揮者ウグリン・ガーボル氏や音楽家各氏を招聘して、ソルフェージュや指揮法、授業法のサマースクールを行い、福島コダーイ合唱団も1990年から4回ハンガリー演奏旅行を行った。そのようなハンガリーと日本の深い交流の積み重ねの上に、実現した音楽における真の友情合同演奏だった。YouTube アドレスは、以下である。是非お聴きいただきたい。
<https://youtu.be/kh1jNlhuaO8>

3 日本音楽教育学会に入会して

久米 亜弥（香川県坂出市立坂出小学校）

私がこの会に入会するきっかけとなったのは、平成26年度から2年間香川大学大学院で音楽教育について学んだ際に、指導の教授から勧められたことでした。

そもそも現職の小学校教員としてもうすぐ20年が来ようとしていた私でしたが、以前のどの学校におきましても、音楽を専門としている教員が各学校に1、2名しかおらず、授業研究や教材について相談をしたいと思っても、なかなか難しい状況にありました。自分の考えている授業内容や評価が果たして妥当性があるかどうか、また、よりよい指導の仕方を知りたい、などと小学校で音楽の授業をしながら日々考えておりました。そのような中で、大学院で音楽教育について学ぶ機会があると知り、私は喜んで修士課程をめざし大学院へと進学しました。

大学院や本学会は、現場とは全く違う空気が流れていると感じました。現場には目の前に子どもがおり、その子どものために培うべき力は何かを明確に把握し、日々それを実践していくことで時間があつという間に過ぎていきます。しかし、研究していく立場としては、理論を構築するために多くの時間を費やし、より確かな言葉で理論を立てる必要があります。本会では、私に不足している理論構築の基礎を教えてくださいたいと思っています。そして、教員としての今までの実践を、より確かな理論に基づいて考えられることができるために有意義な活動ができればと思っています。どうぞ、よろしく願いいたします。

4 伝えたい！民謡の素晴らしさ

柳 憲一郎（日本放送協会）

皆様、はじめまして。昨年度、この学会に入会させて頂きましたが、そのきっかけは「民謡」について書かれたある論文でした。私は現在、民謡番組を制作しておりますが、若い人の中には「民謡」に興味すらお持ちでない方もいます。いろいろと悩んでいる時に、論文の数々と出会いました。「民謡」の本質は何か、どのような民謡が子どもたちに親和性があるのかについて書かれていた、これらの論文の執筆者はこの学会の先生方でした。この学会の素晴らしさはそれだけに留まりません。音楽の時間に子どもたちに伝統的な音楽をどのように教えるか。その方法を模索されている方がたくさんいらっしゃることも分かりました。

私はかつて教育番組を制作していた経験があります。以来15年にわたり、教育現場での放送番組利用について考える「放送教育研究会」にも所属しております。研究会を通して、現場の先生方が日々様々な苦労をしながらも、非常にやりがいのある仕事をされている様子を見近くなりました。

様々な人々に「民謡」の素晴らしさを伝えたい。もちろん、未来を担う子どもたちにも「民謡」に興味を持ってほしい。さらに日本中の人々の心に響かせたい。そのためのヒントが、この学会にはたくさんあります。大変微力ながら、私も一緒に研究させて頂きたいと志しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

[広報委員会より「新入会員の紹介」頁新設のお知らせ]

新入会の方々による入会の動機、学会に寄せる期待などについて、今号から記事を掲載します。

今回は2名の方をお願いしました。この他にも91名もの方々が多様な思い、多様な願いを持って昨年度この学会に入会されています。

5 会員の新聞・近刊等紹介

- ★権藤 敦子 『高野辰之と唱歌の時代—日本の音楽文化と教育の接点をもとめて—』
東京堂出版 2015/8/20 A5版 519頁 [本体 7,500円+税] ISBN978-4-490-20913-6
人々のうたの本来的なあり方を根底に据えた高野辰之の音楽観を検証して日本の音楽と教育の接点を捉え直し、歴史研究の視点から、今後の音楽教育における「我が国の音楽文化」への示唆を明らかにした。
- ★坪能 由紀子・味府 美香・片岡 寛晶・木下 和彦・駒 久美子・早川 富美子
『保育者・教師をめざす人、生まれ〜！ みんなピアノだい好き！』
全音楽譜出版社 2016/1/15 菊倍版 168頁 [本体 2,000円+税] ISBN978-4-11-170206-0
クラシック、ポップス、世界の音楽に至る幅広い音楽様式、1音でできるコード伴奏、ジャズ、J-POP、図形楽譜など多様な即興、音楽づくり等、初心者からピアノを楽しめる工夫満載。
- ★小畑 郁男・佐野 仁美 『究極の読譜術—ここに響く演奏のために—』
(株) ハンナ 2016/3/20 A5版 114頁 [本体 1,500円+税] ISBN978-4-907121-57-0
音楽の演奏表現にも一定の決まりごとやルールがある。20年以上に及ぶ実践から得られた結果を包括的な理論にまとめ、誰でも知っている曲を用いて具体例を示した。(JSPS 科研費 24531160 助成)
- ★今川 恭子監修／志民 一成・藤井 康之・山原 麻紀子・木村 充子・長井 寛子編
『音楽を学ぶということ—これから音楽を教える・学ぶ人のために—』
教育芸術社 2016/4/4 B5版 150頁 [本体 1,800円+税] ISBN978-4-87788-766-7
「なぜ音楽を学ぶのか」この素朴で根本的な問題を、新しい知見に目配りしつつ複数の学術的視点をクロスさせて考える一冊。「声」「モノと身体」「耳」「創造性」「文化」という構成もユニークである。
- ★小野 亮祐・多田 純一・長尾 智絵・安田 寛 (監修)
『バイエル原典探訪—知られざる自筆譜・初版本の諸相—』
音楽之友社 2016/4/10 A4版 128頁 [本体 3,000円+税] ISBN978-4-276-14385-2
『バイエル』の初版を全ページ掲載。現在日本で普及している楽譜と初版との相違、最近発見された自筆譜の経緯など、音楽史的な解説も付けて知られざる『バイエル』の真の姿に迫る。

[広報委員会より「会員の新聞・近刊等紹介」募集のお知らせ]

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下、この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他、CD、DVDなどのリリースもお寄せ下さい。書誌情報、基本的な音源情報に加えて「である調」90字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス (半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

5 報 告

1 平成 28 年度第 1 回常任理事会

日 時：2016 年 4 月 17 日（日）13:00～14:30

場 所：聖心女子大学マリアンホール内ブルーパーラー

出席者：小川，今川（進行），榎藤，今田，奥，加藤，菅（記録），杉江，坪能，寺田，三村

開会に先立ち小川会長より挨拶があり，榎藤事務局長より下記の通り会務報告が行われた。

【会務報告】＜2016 年 2 月 21 日以降＞

3 月 18 日	ニュースレター第 63 号 発行	4 月 16 日	平成 27 年度会計監査会（事務局）
3 月 31 日	音楽教育実践ジャーナル vol.13 no. 2 発行	4 月 17 日	平成 28 年度第 1 回常任理事会・理事会 （聖心女子大学）
3 月 31 日	平成 27 年度会計決算	4 月 18 日	大会開催校 横浜国立大学 表敬訪問
4 月 10 日	平成 28 年度第 1 回編集委員会 （立教大学）		

【審議事項】

1. 平成 27 年度決算報告及び監査報告（杉江・奥）

- 杉江前期会計担当理事より，資料に基づき，一般会計の収入のうち正会員費の大幅減については滞納者への督促不足，学会基金の学会賞支出については平成 27 年度は該当者なし，選挙積立金については交通費の支出増となったことが説明された。交通費については，今後は一般会計の旅費・交通費から支出することも検討されてよいのではないかという意見が出された。
- 奥前期会計監事より，領収書・通帳・現金等間違いがなかった旨，会計監査報告が行われた。

2. 平成 28 年度事業計画及び補正予算について（榎藤・寺田）

榎藤事務局長より事業計画の説明が行われ，寺田会計担当理事より，平成 28 年度補正予算案について，とくに一般会計の学会誌費，事務局費，学会基金の J-STAGE バックナンバー登載費，ゼミナール・ワークショップ基金，選挙積立金，一般会計の予備費について説明があった。

3. 平成 29 年度事業計画及び予算について（榎藤・寺田）

資料に基づき事業計画の説明が行われたのち，平成 29 年度予算案について平成 28 年度補正予算案に準じて作成したことが説明された。

4. 第 47 回大会について（榎藤）

- 資料に基づき，申し込みフォームが JTB アマリスから東武トップツアーズのシステムに変更となり，5 月下旬から受付開始となることが榎藤事務局長より報告された。
- 大会参加費については，会員の大会参加費（一般会員 4,000 円，学生会員 2,000 円）が榎藤事務局長より提案され，承認された。
- 大会実行委員会から提出された別紙資料の日程・予算等計画に基づき審議を行い，大会本部準備金，懇親会費等の扱いについて実行委員長に確認を求めることになった。また，研究発表，共同企画等の日程について，企画担当を中心に実行委員会と調整の上再考する必要がある，という意見が出された。

- プロジェクト研究について、加藤理事から、資料に基づき「学会から社会への発信(第2年次)」の趣旨説明が行われた。企画担当 今田・坪能理事からは、「夏期ゼミナールの成果とも関連づけながら若手の意見を集約すること」を趣旨とする新しい常任理事会企画が提案され、承認された。なお、新規の企画については、プロジェクト研究Ⅱ「若手研究者が考える音楽教育学の hereafter」として 常任理事会終了後メール会議で提案され、承認された。

5. ゼミナールについて (今田・坪能)

坪能企画担当理事より8月13～14日に日本女子大学で「英語で研究を海外に発信しよう」というテーマでのゼミナールを開催予定であることが報告、了承された。

6. 50周年準備WGについて (小川)

50周年準備WGを今川副会長を中心に組織し、準備を開始することが提案、承認された。

【報告事項】

1. 韓国音楽教育学会との交流について (小川)

昨年度の宮崎大会での成果を踏まえ、今年度も、韓国音楽教育学会の年次大会で、会員の研究交流を主目的とした交流を進めることが提案、了承された。

2. 国際交流委員・アジア地域連携担当について (小川)

- 韓国音楽教育学会との交流に関連し、今夏の会長訪問が困難であること、今後の交流については、今田委員をアジア地域連携担当に任命し、一任することが報告、了承された。
- 日本音楽教育学会国際交流委員会規定の委員任期規定の改正を検討することが確認された。

平成28年度第1回理事会

日 時：2016年4月17日(日) 14:30～16:30

場 所：聖心女子大学マリアンホール内ブルーパーラー

出席者：小川、今川(進行)、権藤、有本、今田、奥、加藤、菅(道)、木村(充)、後藤、菅(裕)、杉江、坪能、寺田、南、三村、山本(記録)

小川会長の挨拶に続き、今川副会長より役員一覧の確認、権藤事務局長より会務報告がなされた。☞(p.15参照)

【審議事項】

1. 平成27年度決算報告及び監査報告 (杉江・奥)

杉江前期会計担当理事から会計報告が行われた。また、奥前期会計監事から、4月16日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり、承認された。

2. 平成28年度事業計画及び補正予算について (権藤・寺田)

- 平成28年度事業計画案について提案があり、承認された。
- 平成28年度補正予算案について提案があり、会費未納者への対処、7月までの正会員実数の変

更と会費収入等を加えた上で、学会誌費における J-STAGE 登載に係わる支出、国際交流基金における今年度事業に係わる支出を確認して確定させることとなった。また、学会誌費については、発行体制が変わり掲載率の増加にも取り組むなかで、現段階での予算の見通しが難しいことが有本編集委員長から報告され、状況に応じて理事会で協議することが了承された。

3. 平成 29 年度事業計画及び予算について (権藤・寺田)

- 平成 29 年度事業計画案について提案があり、承認された。
- 平成 29 年度予算案について提案があり、承認された。なお、予備費の減少を指摘する意見が出され、今後留意していくことが了承された。

4. 第 47 回大会について

(1) 大会実行委員会企画 (小川 (昌) 大会実行委員長)

- 小川実行委員長が出席し、説明が行われた。予算に関して、アウトリーチ・プログラムとの関係、横浜市からの補助金について、「大会開催についての学会本部と大会実行委員会との覚え書き」に記載された準備金の解釈と、全収入が全支出を下回ったときの学会本部補填についての取り決めについて、講演謝金と施設使用料について等、質疑応答が行われた。
- スケジュールに関しては、記念演奏、開会式の必要性が問われ、日程がタイトになると発表時間の編成や司会者の確保等への影響が懸念されるため、従来通りの日程にするほうが望ましいのではないかという意見が出された。学会本部が責任をもつ総会、研究発表、共同企画、プロジェクト研究と、実行委員会企画との調整を要望し、継続して検討することとなった。

(2) プロジェクト研究 I (加藤)

「学会から社会への発信」というテーマでの第 2 年次として、学会における実践研究の成果を社会に発信する手立てに焦点をあて、『音楽教育実践ジャーナル』から学校への発信を切り口として、アンケートの実施、報告、座談会等で構成する提案がなされ、登壇者の依頼を含め、これを承認した。なお、将来的には授業シリーズの出版を視野にいられた企画とする予定である。

5. 第 48 回大会 (東海地区) について (南)

愛知教育大学に会場校をお願いして、2017 年 10 月に新山王理事を実行委員長として開催予定であることが報告された。

6. ゼミナールについて (今田・坪能)

本年度の夏期ゼミナールを、8 月 13 日 (土)・14 日 (日) に日本女子大学を会場として開催。2013 年の第 12 回音楽教育ゼミナール「英語で研究を海外に発信しよう！」の続編となる企画で、海外での発表を目標に若手を中心に参加を呼びかけ、来年度のプロジェクト研究につなげる予定。なお、実行委員についてはこれから委嘱することが報告され、承認された。

7. 50 周年準備ワーキンググループについて (小川)

今川副会長を座長として、50 周年大会時に記念事業の披露ができるよう準備を開始することが承認された。委員は、今川恭子、有本真紀、加藤富美子、齊藤忠彦、権藤敦子、菅裕、本多佐保美会員 (なお、委員については常任理事会・理事会終了後、委嘱された)。

8. J-STAGE 登載申請について (権藤)

『音楽教育学』(登載開始は 6 月から 8 月)、『音楽教育実践ジャーナル』(登載開始は 12 月から 2 月) の J-STAGE 登載が決定となり、登載対象と登載時期について協議した。登載業務はジェ

イピーコーポレーションに委託するが、件数に応じた費用がかかるため、編集委員会で搭載対象範囲が検討され、理事会に提案された。登載対象については原案通りとし、今後発行される号については編集委員会の判断とすること、また、登載時期については学会誌発行の1年後からとする案が承認された。なお、J-STAGE 登載の説明会に8月出席予定。

9. 規定類の改正について (小川)

「会員の権利等に関する内規」について、賛助会員、団体会員についての規定の整備、「国際交流委員会規定」について、委員任期規定の見直しを総務担当で検討することが了承された。

10. 学会賞審査委員について (小川)

7名の新委員を委嘱することが承認され、具体的な委員については常任理事会・理事会終了後、理事会 ML において承認された。

委員：小川会長、有本編集委員長、永岡都前編集委員長、加藤富美子、北山敦康、嶋田由美、坪能由紀子の各会員。

11. 平成 28 年度参事の委嘱について (権藤)

高橋憲人・前田一明 (以上、弘前大学大学院地域社会研究科後期博士課程院生)、小林貴紀・中村静香 (以上、弘前大学大学院教育学研究科院生)、田邊裕子 (東京成徳大学)、田中路 (東京純真女子大学) の各会員に参事を委嘱することが承認された。

12. 名誉会員について (小川)

本年度推薦の該当者なしとすることが提案され、承認された。

13. 後援申請 (伊野→権藤)

資料に基づき、日本・ブータン民俗音楽研究会主催、日本・ブータン外交樹立 30 周年記念事業「ブータンの宝石ツァンモー未来に文化をつなぐ」の後援申請が承認された。

14. 新入会員及び退会者について (権藤)

新入会員及び退会者の報告がなされ、承認された。

正会員 新入会員 (2016 年 2 月 21 日 常任理事会以降) 12 名

申し出退会者 (2016 年 2 月 21 日 常任理事会以降) 34 名

※ 2016 年 4 月 9 日現在、正会員総数 1,529 名 学生会員数 1 名

【報告事項】

1. 韓国音楽教育学会との交流について (小川)

☞ (p.16 参照)

2. アジア地域連携担当について (小川)

8 月 10 日にソウルで開催される韓国音楽教育学会大会からの招聘は、会長代理を今田常任理事に依頼し、アジア地域連携担当に任じることが報告、了承された。

3. 育志賞の推薦について (小川)

資料に基づき、第 7 回日本学術振興会育志賞候補者推薦についての通知が報告、依頼された。

4. 各委員会報告

(1) 編集委員会 (有本)

資料に基づき、3 月以降の活動、委員長には有本委員、副委員長に水戸博道委員が選出されたことが報告された。「書評論文」の明確化、「委員が投稿した場合の取扱い」の学会 HP への掲載、

編集委員会全体の体制を委員長が述べるなかで委員の紹介も行うことが提案され、承認された。理事からは、『音楽教育学』における「書評」「書評論文」、『音楽教育実践ジャーナル』の図書資料紹介と、ニュースレターでの新刊紹介との区分の明確化について要望があった。

(2) 広報委員会 (奥)

資料に基づき、本年度方針、委員長には奥委員、副委員長に高見仁志委員が選出されたこと等が報告された。ニュースレター「会員の声」に、輪番で執筆者の推薦をするよう各地区担当理事に依頼された。イベント情報、「新刊紹介」「会員の声」の執筆者等情報提供依頼がされた。なお、新刊紹介のスタイルを変更し、会員の活動をより多く紹介できるようにすることとなった。

(3) 文献目録委員会 (木間→権藤)

資料に基づき、第167回の委員会報告がなされた。

5. 例会報告 (各地区担当理事)

平成27年度後半期の地区例会および平成28年度前半期の地区例会(予定)について報告された。

- 北海道：7月2日(土)開催予定 於：北海道教育大学札幌駅前サテライト。(寺田)
- 東北：3月5日(土)於：岩手大学。研究発表6件。川口明子会員によるガムランワークショップ。20名参加。(今田)
- 北陸：2月14日(日)於：信州大学教育学部。日本音響学研究会との共催。12本の発表。(後藤)
- 関東：関東：28年度前期は博論発表会を含めた例会とし、後期にも実施予定。日程はHPに掲載。(木村充)
- 東海：3月16日(水)於：岐阜聖徳大学。学部の卒論3本、院生発表2本、その他2本、計7本。山田隆氏を招いてシンポジウムを行った。30名出席。今年度も3月開催予定。(南)
- 近畿：3月26日(土)於：佛教大学・「音楽鑑賞を極める」というテーマで開催。40名を超える参加があった。28年度第1回は5月21日(土)於：和歌山大学で卒論・修論・会員の研究発表を予定。(菅道)
- 中国四国：2月27日(土)於：香川大学 卒論7本、研究発表4会場で十数本。スタッフを入れると参加者は40名を超える。今年度も2月予定。中国と四国交代で実施。(三村)
- 九州：2月28日(日)於：大分大学教育福祉科学部 7件の発表があった。松本公博氏を招いて、講演「音楽における自然体験」を開催した。(木村次→菅裕)

6. 地区例会の開催の手続きについて (事務局)

資料に基づき開催手続きを確認した。日程が決まったら事務局に早めに連絡をする。

7. 事務局体制について (事務局)

HP更新業務について、榎本深雪さんから光平有希さんに担当を交代すること、事務局員のシフトがまわりにくい場合に中村幸子さんに事務補佐をお願いすることが報告された。

※ 次回会議の予定

第2回常任理事会 7月17日(日)14時開始予定 於：聖心女子大学

第3回常任理事会・第2回理事会 10月7日(金)時間未定 於：横浜国立大学

6 事務局より

事務局長 権藤 敦子

- 横浜大会《会員 Web 事前申込》:東武トップツアーズのシステムに変わりました。大会参加,懇親会,弁当,宿泊を受け付けています。入金が確認されたら申込登録となります。

横浜大会事前申込

<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/YOKOHAMA47/>

〆切: 9月9日(金)

それ以後の大会参加,懇親会の申込み,および会員以外の申込みは当日受付でお願いします。

- 大会の発表申込: 6月19日をもって締め切りました。

多数の申込,ありがとうございました。

- 年度会費の期限内納入: ご協力ありがとうございます。まだお済みでないようでしたら,お早目をお願いいたします。会費未納の場合,その後の送付物,論文投稿に支障がでる場合があります。2年間会費を滞納すると自然退会となりますのでご注意ください。

- 事務局開局時間: 昨年度同様,月・水・木(9:00~15:00)です。亀山さん,若尾さん,中村さん(事務補助)が事務業務を分担し,交代で対応しています。どうぞよろしく申し上げます。

【編集後記】

本誌の編集作業は桜便りを聞きながら4月に始まりました。熊本地震のニュースが飛び込んできたのもその頃です。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて,今号より「新刊紹介」の編集方針が変わりました。これまでのように書籍やCD, DVDの内容を詳細にお知らせすることは叶いませんが,より多くの刊行情報をお届けできるようになります。会員皆様の新刊・近刊の記事を募集いたしますので,ご出版の際には是非,広報委員会にもお知らせください。もちろん,そのほかの情報提供等,会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また,ニュースレターの更なる充実に向けて,ご意見,ご要望もお聞かせください。

今号の「音楽教育の窓」には,能楽小鼓方大倉流十六世宗家 大倉源次郎氏よりご寄稿いただきました。また,「会員の声」では従来通りご投稿いただきました記事に加えて,新入会員の方々にも抱負を語っていただきました。

2016年度,学会が新体制となったと同時に広報委員会のメンバーも変わっております。奥忍委員長と高見仁志副委員長,村上康子および山中和佳子の4名で精一杯取り組んでまいります。2年間,どうぞよろしく願いいたします。(村上 康子)

投稿先アドレス☞(半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

【日本音楽教育学会事務局】

所在地: 〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL & FAX: 042-381-3562 E-mail: (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私 書 箱: 〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日時: 月・水・木 9:00~15:00

事務局員: 亀山さやか・若尾裕子・中村幸子